

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成18年度病害虫発生予察特殊報第3号について（送付）

与論島，沖永良部島，喜界島，奄美大島のサトウキビにおいて，「クロテンオオメンコガ」（*Opogona sacchari* Bojer）の発生が認められ，特殊報第3号を発表したので送付します。なお，病害虫防除所ホームページ（www.jpjn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第3号

平成19年3月12日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 クロテンオオメンコガ *Opogona sacchari* Bojer
(ヒロズコガ科，メンコガ亜科)

2 作物名 サトウキビ

3 発生確認及び発生状況

本種の発生は平成16年頃に沖永良部島のサトウキビで確認されていた（沖縄県農業研究センター新垣氏同定）が，平成18年6～11月に新たに与論島，奄美大島，喜界島のサトウキビで発生と被害が認められた。被害ほ場では，芯枯れや倒伏が一部の株に見られたが，奄美大島ではほぼ全株が倒伏し，ほ場全面が枯れる激甚被害が認められた（写真1）。また，喜界島でも一部が坪状に枯れる被害が認められた（表1）。

表1 奄美群島におけるクロテンオオメンコガの発生状況（平成18年）

島名	見取りほ場数	切開調査ほ場数	発生ほ場数	被害程度	
奄美大島	-	夏植	8	8	一部甚被害
		新植夏植	2	1	坪枯れ
喜界島	335	夏植	2	1	少被害
徳之島	134	夏植	10	0	発生無し
沖永良部島	297	夏植	9	6	少被害
		採苗ほ	1	0	発生無し
与論島	256	夏植	10	3	少被害
		株出	6	1	少被害

4 形態及び生態の特徴

分布と侵入の経緯

分布：中国，アフリカ，北アメリカ大陸南部，中南米，ヨーロッパ中南部
日本では昭和61年に福岡県で初めて確認された侵入害虫で，平成13年までに新潟県から沖縄県に至る13地点で発生が確認されている。

形態：成虫は，雌が開翅長約23mm，雄が約20mmで，前翅は暗灰色の地色に黒色の斑点を持つ（図2，3）。終齢幼虫の体長は約30mmで，乳白色の体に刺毛基盤が発達し，背中に他のメイチュウ類とは異なる黒色の斑紋を持つ（図4）。

生態：海外では観賞用植物，バナナ，サツマイモ，トウモロコシなどの害虫として知られる。わが国でも平成13年まではドラセナ，パキラ等観用賞植物への加害が記録されていたが，近年，沖縄県でサトウキビへの被害が問題となり始めた。本種は植物の枯死した部分や飼料などを好んで摂食する習性があり，サトウキビでは採苗後放置されて腐植した部分，他のメイチュウ類などに加害された部分，台風などによる折損部分，株出しほ場の刈株などから侵入し，内部を食害する傾向がみられる（写真5）が，最初に健全な茎に食入するかどうかは不明である。

5 引用文献：平成18年度病害虫試験成績書（農業開発総合センター大島支場）
日本応用動物昆虫学会誌 第48巻第2号（2004）吉松ら

参考資料



写真1 甚被害ほ場での被害状況（奄美大島）



写真2 雌成虫（開翅長：約23mm）



写真3 雄成虫（開翅長：約20mm）



写真4 幼虫（体長 約30mm）



写真5 幼虫によるサトウキビの食害痕